

はこだて自由市場 大門食堂

函館市新川町1番2号 はこだて自由市場内
営業時間 8:00~14:00 (日曜定休)



店頭には新鮮な食材を使った惣菜や弁当が並ぶ

●プロの料理人も訪れる市場

函館駅前の繁華街と住宅地をつなぐ新川町に位置する「はこだて自由市場」は、函館市民の買物市場として、鮮魚、青果、乾物など市民の食卓を飾る生鮮品を扱うお店が軒を連ねています。特に魚介類の豊富さには定評があり、専門性の高い品揃えのお店が多いのも特徴で、プロの料理人が仕入れに来る市場としても知られています。

最近では、評判を聞きつけた観光客の姿も多く見られるようになりました。

●課題

一方で、自由市場は商圈人口の減少や食生活の変化、近隣への大型店の出店、組合員の廃業、空き区画の増加といった課題を抱えています。総務省の家計調査によるとこの20年間で「生鮮魚介」の支出は41%減少した一方で、調理食品は40%支出が増加しているそうです。自由市場の強みである生鮮魚介を取り扱う店舗は市場全体の6割を占めており、日常の買い物の場として、食生活の変化に十分に対応できていない可能性があります。

また、コロナ禍で落ち込んだ観光需要が回復しつつあるなか、混雑時にはフードコートに順番待ちが発生するなど、販売機会の損失に繋がっている可能性もあったことから、市場内のレイアウトの最適化を行う必要がありました。

●オリジナル惣菜店「大門食堂」の誕生

自由市場では、これらの課題を解決するため、まず空き区画だった2区画を改装し、フードコートを増設しました。また、調理食品の需要を見込んだ新たな店舗の出店を企画し、店舗の運営について以前から自由市場と親交のあった自動車販売業の大門さんに声をかけたところ、快く引き受けてくれ、自由市場に「大門食堂」が誕生しました。

●出店をきっかけに自由市場の魅力を発信

令和5年3月3日にオープンした大門食堂は、目玉商品の「イカ丸くん」や「じゃがコロくん」のほか、自由市場の新鮮な食材を使ったお惣菜と日替わり弁当、市内の人気パン屋さんとのコラボパンの販売など、大門さんのアイデアと人脈を生かした多彩な商品を取り揃えています。情報発信にも力を入れ、Instagramで日替わり弁当の情報などを毎日発信しているほか、地元飲食店とのコラボメニューの開発にも取り組み、焼肉店とコラボした焼肉弁当や居酒屋とコラボしたセセリ丼など、ここでしか食べられないお弁当も人気で、市民や観光客だけでなく、手頃な価格でお惣菜やお弁当を買えるお店として、他の店舗の従業員からも好評です。オープンして4か月ほどですが、大門食堂にはすでに札幌や東京の催事から出店の声がかかっている、催事では自由市場ののぼりとパンフレットを携えて出店し、自由市場の広報マンとして活動する予定です。自由市場としても、大門食堂をきっかけにより多くの人に自由市場の魅力が伝わればと、大門さんの活躍に大いに期待しています。



函館自由市場の前理事長(左)と大門さん(右)